

# 琉球・沖縄の近代

## I、琉球王国の繁栄～大交易時代

### 古琉球の歴史

～10世紀 貝塚時代  
 10世紀～ 原グスク時代 農耕の開始→人口の急増  
 12世紀～ グスク時代→三山時代 1372年中山王、明への朝貢（明の属国に）  
 1429 尚巴志による本島統一（琉球王国成立） 首都は首里に  
 ※大交易時代の到来→日本・朝鮮・東南アジアと明の交易の仲介を行う

#### 「万国津梁の鐘」（1457）銘文

琉球国は南海の恵まれた地域に立地し、朝鮮の豊かな文化を一手に集め、中国とは上あごと下あごのように密接な関係にあり、日本とは唇と歯のように親しい関係を持っている。この二つの国の中間にある琉球はまさに理想郷といえよう。よって、琉球は諸外国に橋を架けるように船を通わせて交易をしている（現代語訳は「高等学校琉球沖縄史」による）



万国津梁の鐘

#### ①大交易時代の琉球

・明の「海禁政策」（鎖国）下の「長崎・出島」  
 ⇒東アジア・中国の物資が集まり、交換される

#### ②前近代東アジアの国際秩序＝華夷秩序

・華夷秩序…中国皇帝を頂点とする階層的な国際秩序。

周辺の主君は皇帝に貢ぎ物をし（朝貢）、皇帝に王として認められる（冊封）形式をとる。

→琉球からの進貢使派遣と、冊封使の来訪

→中国の威光と文化の移入、実態としての貿易

### 大交易時代(14～16世紀)



## II、薩摩侵攻～日中両属下の琉球王国

1470 第二尚氏王朝成立＝明の海禁緩和・南蛮貿易開始・発展により交易は低調に  
 16世紀末 秀吉による服属・軍資金要求⇒屈服  
 1609 島津家による琉球侵攻⇒以後、中国と薩摩（日本）の両属状態がつづく  
 1872 琉球藩の設置  
 1879 廃琉置県（「琉球処分」）＝「日本」への強制編入

#### ①薩摩の琉球侵攻（1609）

⇒尚寧王を捕らえ家康に引見させる。薩摩の属国に

#### ②薩摩の支配

・薩摩仮屋の統治…王国の政治や中国貿易を監督・年貢納入、「江戸上り」の督促など  
 ※「江戸上り」＝幕府への「朝貢」…国王即位（「謝恩使」）、将軍の代替わり（慶賀使）の使節

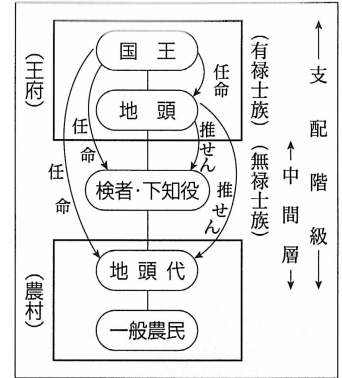
### ③日中両属下のそれぞれの位置づけ

- ・琉球王国…薩摩の制約を受けつつも、外交権や内政権を保持する「自治政府」
- ・清…皇帝の権威に服する冊封・朝貢関係下にある「属国」。中国の年号を使用。
- ・薩摩…幕藩体制下の大名の知行下にある「付庸国」
- ・幕府…「小中華」帝国下の属国。幕藩体制内の「異国」→使節を派遣すべき存在  
ちなみに、清とは欧米諸国同様の「互市」（外交をもたない交易関係）関係

### ④琉球王国の社会と政治 = 「苛政」・社会の混迷、薩摩の収奪

- ・人口の1/4が士族（サムレー）身分・免税権  
上級士族が高位を独占、試験も形式的  
下級士族の貧窮 強い不満を持つ
- ・「田舎百姓」  
上級の「士」とむすぶ一部の地方役人（地頭代など）  
大多数の貧農 = 重い負担が集中、「苛斂誅求」状態に
- ・「町百姓」 = 商工業者・税免除

→琉球王国…薩摩による過酷な収奪、門閥士族による「頑迷固陋」の政治などがつづき、矛盾は貧しい農民に転嫁される。



琉球王府の統治機構(概念図)

## Ⅲ、19世紀後半の東アジア～華夷秩序の解体

- ① ~19世紀前期…清を頂点とする華夷秩序の存在
- ② 19世紀中期…欧米列強の東アジア進出→華夷秩序と万国公法体制の併存  
1840~42アヘン戦争・1856~60アロー戦争  
1853 日米和親条約・1854 琉米修好条約・1858 日米修好通商条約
- ③ 1868 明治新政府成立 = 主権国家体制を採用→国境の画定をすすめる。

### ④主権国家体制（「万国公法」体制）とは

国境できっちりと区切られ、内側の土地人民に全責任を負い、他国の内政干渉を許さない「主権国家」が共存する国際体制

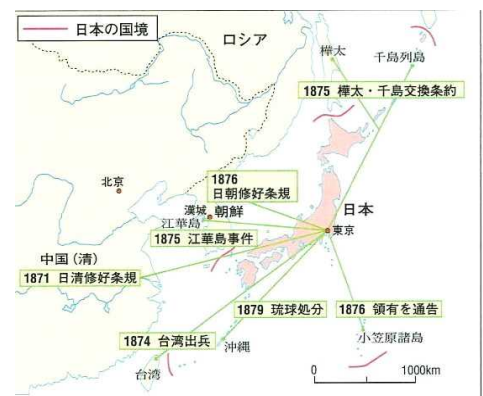
→「未開の地」や「半文明国」に対し、「文明の恩恵」を与えるとの建前で、「植民地」化をすすめたり、不平等条約を押しつける欧米流の国際秩序

### ⑤主権国家体制 = 国境・国民・排他的統治権の確保

→国境線の画定の必要 = 日本の「内と外」を定める

- ・北…1875 ロシアと千島樺太交換条約
- ・南…1876 小笠原諸島の領有を宣言

→問題となるのは日清両属状態の琉球王国の帰属



【明治初期の外交と国境の画定】

## Ⅲ、廃琉置県

- ①国境線の画定→課題としての琉球王国の帰属
- ②琉球王国を組み込むための課題

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| (1)王国が属国であることの再確認する   | (2)列強の承認と王国の外交権剥奪・条約破棄 |
| (3)清との宗属関係の解消・朝貢冊封の中止 | (4)清による宗属関係の解消承認       |

### ③琉球藩の設置

1872 王国からの使節に琉球藩の設置、条約文の提出などを承認させる。

→「日本の属国」となる。他方、「王国の政体は永遠に保証する」とも

### ④日清修好条規(1871)

- ・列強とは異なる平等な近隣関係樹立をめざす
- ・清側＝日本の侵略的性格への危惧→とくに琉球王国・朝鮮への進出を懸念
- ・日本側のねらい＝朝鮮・琉球の宗主国・清と対等な地位に立つ

<内容>

- ・互いに治外法権・協定関税を認めあうことでの対等平等、最恵国待遇なし
- ・「両国所属の邦土、ややも侵越あるべからず」(1条)→対象を明示せず

### ⑤台湾出兵(1874) 宮古島の使節が台湾先住民に殺害された事件をきっかけに、

日本軍が台湾に出兵した事件。日清間の戦争に発展する危機もあった。

論点：①台湾先住民は「化外の民」なので清には責任はないのか。

②琉球人は「日本人」との了解は得られるのか。

③「化外の民」の住む「無主の地」なら清の領土し、勝手に行動してよい？

結果：清は日本の出兵を「義拳」とみとめ、見舞金を支払う

→日本側は、「琉球人は日本人」と容認したと判断

※「主権国家体制」論にたつ日本が「華夷秩序の原則」にたつ清を追い込んでいく。

### ⑥「琉球処分」の本格化と王国の抵抗・清の動き

- ・1875 日本政府、冊封・朝貢関係の断絶、日本の制度導入、軍隊駐兵などを要求
- ・琉球王国の抵抗＝「『小国』としての伝統的な対応」

政府への陳情、「引き延ばし策」と清への働きかけ＝「脱清救国運動」

- ・清国の抗議（清国公使は軍艦派遣を依頼）→動きがとれない
- ・日本政府＝清との通交禁止（朝貢できず）、基地建設を強行
- ・王国内の対立＝「頑固党」と「開化党」

### ⑦1879 廃琉置県（狭義の「琉球処分」）の強行

- ・内務省大書記官松田道之、軍隊と警察・官僚とともに来沖
- ・琉球藩廃止・沖縄県設置を命令、尚泰の東京移送を命じる

### ⑧ヤマトの支配～士族の屈服

- ・王府の廃止と県庁への機能移転⇒以後、他府県人中心の県政運営つづく
- 士族らのサボタージュ＝年貢引き渡し拒否→関係者の一斉逮捕、拷問で屈服させる

### ⑨ヤマトの支配～「旧慣温存」策と変革の動き

- ・それまでの王国の統治のやり方を継続
- 王族や上級士族を優遇、下級士族の冷遇、民衆への負担は軽減せず

- ・二代目知事・上杉茂憲…民衆の状態を調査→中央に改革を進言、罷免される

- ・宮古島における人頭税廃止運動→旧慣温存策と対立

### ⑩「脱清救国運動」と琉球分割案

- ・脱清救国運動…清政府に働きかけ王国復活をめざす
- ・清…グラント前米大統領の斡旋を依頼

→宮古・八重山諸島を中国領（琉球王国を復活）

日本…修好条規の不平等条約化を条件に承諾



## V、「ヤマト化」の進行（広義の「琉球処分」）

### ①日清戦争と沖縄

- ・頑固派…清の「戦勝祈願」 中等学校生徒…「義勇軍」の結成
- ・日本の勝利→王朝復活は不可能に、上級士族らの弱体化（→公同会運動の挫折）

### ②旧慣温存策からの脱却＝沖縄の「ヤマト」化の開始

- ・1899～03 土地整理（地租改正）の開始…農民の土地所有承認、士族へも課税
- ・1898地方制度改革開始（～1920） 内地とは大きく異なる内容
- ・1898徴兵令の施行→大量の忌避者（指切断・清に亡命）
- ・1912参政権の実現 →本土並みの制度となるのは1919年
- ・1910～「士」族解体へ（秩禄処分）

### ③サトウキビ生産の拡大と「ソテツ地獄」の発生 土地整理⇒サトウキビ生産の拡大⇒価格下落 「ソテツ地獄」→出稼ぎや海外移民の急増

### ④他府県へのお出稼ぎ

「ウチナーグチで生きてきた人」が担い手  
紡績工場や土木建築工員、港湾労働者など  
→差別や偏見、集住（「リトル沖縄」の成立）

### ⑥海外移民…人口比で最大

ハワイ（1900～）、南米（ペルー・ブラジル）  
南方（フィリピンなど）

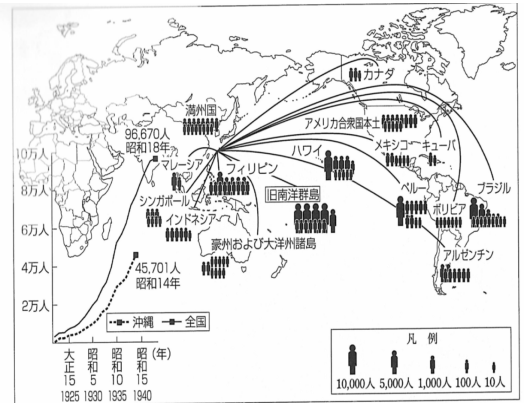
南洋諸島への移民…主に沖縄で募集される⇒アジア太平洋戦争で犠牲に

### ⑦「方言論争」…沖縄の伝統・文化を守ることと、日本人として生きることの相剋

- ・「日本人」化の進行＝風俗改良運動、「普通語」の普及、髪型・服装の改革  
→琉球の文化風俗を差別・野蛮視する風潮（⇒人類館事件）と、それに対する対応
- ・「方言撲滅運動」、改姓運動  
→沖縄の伝統・文化を否定的にとらえる傾向と「日本人」の共通基盤形成の側面

### ⑧伊波普猷＝「沖縄学の父」…「琉球・沖縄の個性」と「日琉同祖論」

⇒沖縄近代の重層的矛盾を反映



## おわりに～沖縄戦の中の沖縄「県」民

「標準語」を話し、天皇に忠誠を誓って勇敢に戦って死ぬことで他府県民以上に完全な日本人になろう（「同化」）と考え、これによって差別をはね返そうとする。

→沖縄戦…本土の日本人以上に日本人として戦おうと戦争に協力するが・・・

爾今、軍人軍属を問わず標準語以外の使用を禁ず。

沖縄語をもって談話しあるものは間諜とみなし処分す（球日命4月9日）